

継続は力なり

—行政相談委員活動は「楽に柔軟な考えでやることが大事」—

元行政相談委員
高知行政評価事務所長
次田 敏幸 氏
石本 喜彦 氏

全相協では、平成29年度から、新たに、25年以上行政相談委員として活動され退任された方のうち、行政相談委員の組織の活動等に関し特に顕著な功績があった方に対し全相協会長特別表彰を行うことになりました。

これは、行政相談委員の皆さんに、少しでも長く在職していただくこと、また、行政相談委員団体の活動の活性化に寄与することを目的として設けたものです。

今回、第1回の特別表彰を受けられた中から、行政相談委員として約48年3か月の長きにわたり務められ、その間、地相協、広相協及び全相協の役員を歴任されるとともに、5,000件を超える相談を受け付けられた高知の次田敏幸元委員（平成29年3月31日退任）と石本喜彦高知行政評価事務所長との対談をお伝えするものです。（以下敬称略）

行政相談委員になったきっかけは
「『自分のことより人のことをする』
が我が家の伝統」

石本 次田さんには48年以上行政相談委員としてご活躍いただき、昨年度末の委嘱替えて定年で退任されました。私が、昭和58年頃に初めて高知（当時は高知地方監察局）に赴任したときに、地相協副会長をされて

いました。それから役員を長く務められたわけですが、今までの委員活動を振り返っていただいて、後進の方の参考となるよう、お話しただけだかと思えます。順次話を進めさせていただきます。

委員を48年以上やられて、全国的にも最も長い経歴をお持ちですが、ご家族と、特に奥様のご協力がないと長く務められなかつたと思います。行政相談委員になつた

きっかけはどんな感じでしたか。

次田 私は、小学4年生からアルバイトをして、自分で働いて、川で魚を捕って、学費を自分で賄ってました。2歳で母親が死んで、兄弟4人、本当に貧乏のどん底にいました。それで小学校の高学年から中学校までは、午前中は学校に通いながら、午後ほとんど学校に行きませんでした。終戦の混乱の時は小学5年生でした。

親父は、酒がうんと好きでしたけど、人に頼られたら借りてきても貸すような人で、そうした家の伝統が残っています。「自分のことより人のことをする」が我が家の伝統です。

委員になったきっかけは、当時の町内の中学校が非常に荒れていて、学校が改築されなくてもすぐにガラスが全部割られて1枚もなくなくなるということがありました。それで何とかせないかん、ということになって、少年補導センター（現在の少年育成センター）が作られました。当時はBBS（非行のない社会環境づくり）が言われ始め、非



（左）次田氏、（右）石本所長

行少年と友達になって、お互いに勉強や一緒に遊んだりして更正させるということになった。また、保護司の制度ができて、成果が上がり始めた頃でした。

23歳のとき社会福祉協議会の理事となり、25歳頃から社協の青少年部の部会長を引き受けました。その後、32歳のときに、近所に住んでいる伊野出身の森下監察官（当時の高知行政監察局第一監察官）が、ぎっちり私の家に来て説得するので引き受けました。

委員をやるかどうか分からんけど、貧乏やけど人の世話をしよう。

私には実績もないし、役所に対して苦情がある人が相談にくると聞いて、自分が相談に行かないかんぐらいじゃと思いました。

私には、行政相談委員を引き受けるときに一つ決めたことがある。それは「厳正中立を守る」という信念です。相談には政治がらみの内容が多いですが、良いものは良い、悪いものは悪い、とはっきり言ってきました。相談者の中には、自分のことだけ考えて、自分が間違っているでも役所が悪いと言う人が多いです。私は絶対に中立を守ろうとの信念があったから、それをずっと貫いてきました。

私のはっきりモノを言うので、中には委員をやりよったらお金をどっさりもらいうがやらないか、という悪口を言われたこと

もあります。でも10年くらいそれを通すとね、悪う言う人がおらんようになったし、口コミでどんどん相談がきだしたんですよ。でも、それは行政相談だけじゃなくて、人権教育じゃ同和教育じゃいうて、ずっと取り組んできたんでね。50年貫いてきたことは間違ってたなかつたんだと思いました。

石本 全相協の特別表彰を受けた際にも、中立を守ってきたと取材を受けた新聞に出ましたね。私どもの役所の立場としても、どっちかの鼻屑をしたら噂が広まりますからね。相談者の言うことをちゃんと聞いてくれて、真ん中でいてくれて、やることをやってくれるということが住民から求めら



全相協会長特別表彰贈呈式

れることでしょうか。ちなみに、口コミで広がったのは何年目くらいからですか。

次田 委員になって5、6年目くらいからですが、10年経ったら難しい相談が増えて、話がかんのを持ってくる。20年くらい経つと、処理が難しい相談は「次田に持っていけ」ということで、役所が話をつけられない事案を持つてくる。町の課長を通じて町長が持つてくる。全く逆じゃないかと思うけど、そういう状態になった。これは、私が町の審議会の委員長をしたりしていた関係もあります。一つは宇治川放水水路の問題で、これは非常にもつれてね。2回予算が流れて、3回目の予算が流れたらしばらく整備はできんということで、水資源監視委員会と、全体の監視をする宇治川放水水路監視委員会。町内や大学の先生とか委員の代表とか10数人の民と官の委員長を務めました。それで何年もかけてようやく工事にこぎつけました。

特に印象に残っている相談事案は

石本 次田さんは48年という長い委員活動の中で5,000件という非常に多くの相談を受けられました。特に印象に残っている事案はありますか。

次田 いくつもありますね。

水路の問題で枝川地区。工事が始まると

いうときに、その住民が集まって強制的に工事を止めるようになった。ある個人の家で20人ば集まって、わんわん言いよる。今日工事を始めるのを止めると。ちようど私は役場へ用事があつて町長室に行くと、町長が機動隊を呼ぶぞというので、「町長が町民に対して機動隊を呼ぶぞ、そんな馬鹿なことするな。これで問題解決しても後々(禍根が)残る。私が向こうの住民と話をする」と。機動隊の実力行使はさせないと町に約束させて、30分で話をつけてきてくれと言われた。

住民のところへ行くと、誰が来たいうて、PTAの会長しよる次田がきちゆうと入つて入つていったら、一番の大将に向かつて、おいそんなこと止めやと、ポケットに絶対手を入れとけと。手を出して実力行使はせんというところまで、話をつけた。それで機動隊を出すのは止まった。そんなことありました。

また、20年近く前に、当時の営林局が官舎を作るいうて営林局に土地を売った人が相談に来たわけです。その人は、土地を売るときに余った土地は返すと約束しちゆうのに返してくれん。その土地を町が売るというので戻してほしいと町長に言うけど、聞いてくれん。

それで書類を調べてみると、その相談者は、しつかり契約書作つちゆう。契約書に

は町長の名前が載つてたので、町長に対して、「いかんけ、おまんの負けじゃ。はよ土地を戻せ。」とやうて戻させたら、申出人は大喜びした。

そこまでやる必要ないけんどね、町のことほつちよくわけにいかんし、それから10年くらい経つて、私がPTAを退くとき、校長や教育委員長が200人ばあの予定で「次田敏幸を励ます会」をやつてくれたら300人ぐらいになった。それを知つた相談者は、次田さんを励ます会がやつたらどうしてもいかないかんと来てくれた。10年くらい経つても覚えてくれちよつた。その人は、あと何回か相談に来たけど、そんなこともあつた。

このほか、昔、仁淀川で大きな災害があつて、死者が23人出てね、揉めたがです。毎日のように相談があつてね。災害復旧のときには自分の土地をタダで出さないかんと。

たくさん来る相談者は、自分の土地はなんちゃあ災害におうちよらんのに、土地をタダで出さないかんの納得いかんと。一部の土地を持つちよる人だけ得をすると揉めましてね。

確かにそれはそのとおりやけど、法律では、災害復旧は土地代が生まれません。このように土地の問題はいっぱいありますね。

まずはきちんと相手の気持ちを聴いてあげないかん

石本 たくさんの相談を解決に導いていますが、どのようにしたら解決されるのでしょうか。

次田 人それぞれに価値観が違うから、まずはきちんと相手の気持ちを聴いてあげないかん。何が正しいのか、何が間違っているのか、きちんと聴かんと分らない。頭が固い人は自分の信念だけで通すから、色んなことをやったり、色んな所に顔を出すようにせないかん。自分の仕事をやっとするだけでは、価値観が偏るから相手の言い分をきちんと聴くことができます。わしは民間で色んなことをやってきたから、色んな価値観の人がおるのを知っとる。相手がどんなにおかしなことを言ったとしても「盗人にも三分の理」という諺があるように、どこかに共感できるところはある。相手の話の中で理にかなうことがあれば「お前さんの言うとおり」といって共感してあげることが大事。「そういう考えもあるが、世間はそうは考えんのか」と相手の言い分に共感しながら話すと相手は分かってくれる。そういう風にして、一気呵成に片をつけるものと、何年もかけて解決していくものを見極めていくことが大事。自分はそうやって相談を受けてきた。

石本 ほかには何かありますか。

次田 行政相談委員だけではなく、地元の色んな役を頼まれたら引き受けて、町の人に心安く声かけをする。住民と親しい関係を作って、敷居を低くする。都会では無理かもわからん。地方ではできる。中学校や高校のPTAの会長を長くやった。どこかに行っても最年少やった。行政相談委員の委嘱の際には、市町村や事務所も若い人を探してはどうか。

奥様の理解や支援は

石本 奥様の理解や支援は。次田さんは相談委員だけでなく色んなことをやっているから、今でいうイクメンではないですが、子育てを手伝うということになかなか手が回らんのじゃないのかと。

次田 一緒に子どもの面倒を見たです。寝んずつでも家のこともやっしたし。女房も貧乏して大変やったけど。22歳の時から、家で仕事しよつても何ちゃあ言わんかった。人の役に立つやったら何でもええと。ただ、女房は、議員だけはいかんと。行政相談の内容は、女房にも話さん。ここまで理解してくれる配偶者はおらんとと思う。

私が20歳、女房が23歳で結婚したときから、人の世話をしてきた。こんなもんと普通に思っている。別に意識して努力するわ

けでなく、人のためにするのが当たり前と思っようになつた。

石本 これまでの委員活動に対し、叙勲を始め数々の栄転・表彰等を受けられました。園遊会などはいかがでしたか。

次田 園遊会も女房が行かんと言いき、私は独りで行こうかと覚悟してたら、家族が女房の分まで飛行機チケットを取って、宿泊を決めて周りを固めてくれた。先に町長の夫婦が園遊会に行っちゃったとき、町長の奥さんがうちまで来て、「ぜひ行った方がいい」と女房を説得してくれた。女房も帰りには「来て良かった」と言っていた。



園遊会に招かれた次田御夫妻(平成16年10月)



藍綬褒章伝達式での次田御夫妻(平成11年5月)

現役委員へのメッセージ

石本 最近、短期で辞める委員も多くなりつつありますが、現在の委員、特に新任委員や経験の浅い委員などの現役委員へのメッセージをお願いします。

次田 継続は力なり。一度委員を請け負った以上は1年や2年で成果が得られるはずはない。10年くらいはやらんといかん。これは何の仕事でも同じ。特に大事なのは「人を知る、人に知ってもらおう」ということ。ただ単に広報誌に載るといふことだけではなく、直接人に会って、知り合いになるこ

とが大事。都会では広報誌に電話も住所も載せられない事情もあると聞いているが、高知のような田舎では、委員の皆さんには、いろいろな人と知り合いになって、人を知り、人に知ってもらいたい。

石本 昔の委員さんと、今の委員さんの違いはありますか。

次田 全然違います。昔の委員は、住んでる地域で周りのお世話をしとる人が多かった。おのずと若いときから人の世話をする訓練ができていた。モノの報酬はないけれど、人というものは知らなかったことを知るといふことが、将来の宝になる。自分の勉強やと思うてやるのが大事。人として生まれた以上、人から世話をされるより、人の世話をする方が幸せである。これは、このように同じ時代に生まれ、できる人間の勤めである。いま自分のためにならなくても、先には必ず自分のためになる。先自分のためにならなくても、まわり回って自分の子や孫に返ってくる。因果報酬というもの。

ただし、委員は使命感だけで凝り固まってしよつたら、続きません。楽に柔軟な考えでやるのが大事。気楽に、自分にできる世話をする、無理はしない。必死になつたらいかん。分かんことは聞いたらよい。恥ずかしいことではない。何でも専門家に聞いたら良い。それができん人が多い。分

からんことを分かつたふりして間違いを教えたたら大変なことになる。私が委員を長い間やれたのは、気持ちに余裕をもってできたから。良い意味で人を利用して活動できた。自分は勉強もしていない。けど長くやれたのは教えを乞うてやってきたから。人間は万能やない。一つ間違つたことをしたら、口コミですつと広がるので良いことはない。自分はたいした者じゃないけれど、分らないことは教えを乞うという気持ちで臨んだ。

全相協の活動について

石本 今回の対談は全相協の「季刊行政相談」に掲載しますので。全相協の活動についてはいかがですか。

次田 地相協の会長をしているときに、いろいろ発言させてもらうたけれど、全相協の会へ行くと、会計士などの専門家がたくさんいて、自分の専門分野を話してくれる。何でも遠慮せず、思ったことを話せば良い。間違つたことを言うとなんと訂正してくれる人格者の会長がいる。

それと、あまり人を批判したらいかん。善意で人のお世話をしようと思つた団体なので、和やかにしなくては。

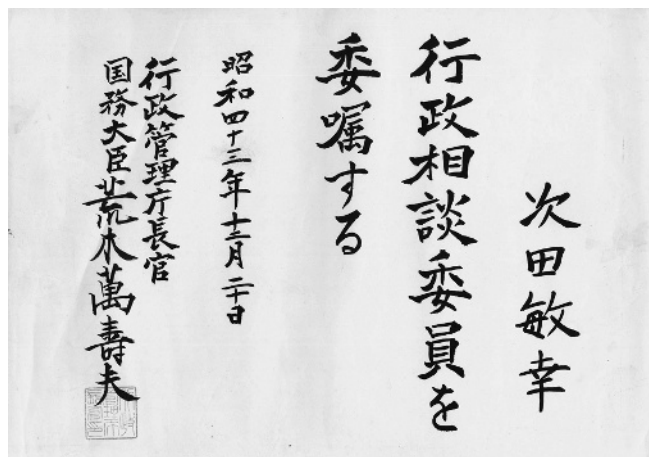
会の運営についても、いつでも柔軟な発想ができるのが大事。民間の団体は、そ

それぞれ管理の仕方が違う。委員はいろいろなことを経験し柔軟な発想を持たんといかん。民と官、双方の柔軟な発想ができる人がおつたらよい。

43年間の地相協役職

石本 昭和43年12月20日に委嘱されて、そのときの委嘱状の写真があります。12月20日という年末に委嘱されましたが、そのときの様子はいかがでしたか？

次田 私は菓子屋をやっていたが、ちょうど年末のクリスマスケーキを作りゆう時期で、24時間寝てないときやった。年度途中



委嘱状(昭和43年12月)

の委嘱は、前任が病気で途中で辞めたため。**石本** 委嘱されてから5年目で地相協の役に就かれて、退任するまでずっと役職に就いておられた。48年の委員の委嘱期間のうち、43年間の役職というのはいすごいと思うのですが。

よろしくお願いします。
委員を退任されてからの暮らしぶりはいかがでしょう？

次田 縁あって役職をし、お互い知り合ったら個人的にも付き合いをせんといかん。会だけの付き合いで終わったら寂しいもんやし、お互いに協力しようという気が起らん。個人的に皆さんと仲良くさせてもらった。

もう一つ、加茂山に親しむ会。この山は伊野町民にとって父なる山じゃと言われていたけど、戦後入植した人も手が回らんで荒れた。それで町民が150人集まって会を作ったけど、計画性がなく行き当たりばったりやった。それで町民が集まって管理計画を作って、登山道の整備や展望公園に桜や花木を植えたり、頂上に男女別のトイレを作ったりしました。20周年には記念式典もやって、町内から200人くらい来てもらいました。いまは、身体の不自由な人のために、何とか車で頂上近くまで来られるよう車道を付ける交渉をしています。元気なうちにそれが完成すればいいと思います。

石本 自主研修会はいかがでしたか。
次田 自主研修会も私の提案で始めた。委員も年に1回の会だけでは、街で会っても委員同士の顔が分からんき、と私が提案して始めました。研修という名前ではあるが、中身は「親しくなろう、当番市町村を知ろう」でした。市町村長が出てきて、目いっぱい自慢してくれと。あと、30周年の記念総会も私の提案。

石本 長時間にわたり、非常にためになるお話をありがとうございます。
(平成29年9月13日対談)

委員退任後の暮らしぶり

石本 次田さんには、平成29年4月から、行政相談委員のOB等から構成される高知行政相談委員協議会協力員として、引き続き高知の行政相談制度の普及にご協力いただいておりますので、引き続き行政相談を

石本 長時間にわたり、非常にためになるお話をありがとうございます。
(平成29年9月13日対談)